



# 怒りを組織しよう！

「過労死ライン100時間とするのは、過労死をさせよ！」と、いうことを認める法案でしょうか。去る3月28日、電通で過労死した高橋まつりさんのお母さんは、

怒りに満ちたコメントを出しました。ヤマトの未払い残業代問題は、4万7千人、190億円を一時金で支払うと報道されています。これはヤマト資本が労働者から190億円盗み取ったものです。

2016年7月1日、集団的自衛権の閣議決定が行われ、労働者、市民、学生の怒りの声は国会を取り巻き、その声は全国に拡がっていきました。「誰にも子どもを殺させない！」「誰の子どもも殺させない！」「貧困なくせ！ 格差をなくせ！」と毎日叫ばれています。

こうした運動は過労死防止につながっているでしょうか、サービス残業はなくなっていくでしょうか、安倍政

権を打倒することはできませんでしょうか。残念ながらまだまだ力が足りません。労働者、労働組合の力が圧倒的に弱いのです。

私たちは、こうした現実から目をそむけず、『共産党宣言』から学習したように、プロレタリアートの革命性を理解し、一つひとつの闘いを階級闘争へと昇華し、「あらゆる階級闘争は政治闘争である」という言葉のとおり、私たちの周りの労働者の階級性を目覚めさせ、押し上げ、階級闘争をたたかえる労働運動を作らなければならぬ時なのです。

労働者には怒りがあり、その怒りは組織されることで大きな力になります。それぞれの職場と地域で一つひとつの小さな怒り、闘いをつなげて学習・交流を深めましょう。



労働大学企画編集委員 小田切 博